

# 「市民のための市政」を 新高梁市 初代 秋岡市長就任



10月26日、新高梁市の初代市長に就任した秋岡毅市長が初登庁しました。午前8時20分、職員約120名が出迎える中、市役所正面玄関前に到着し、代表の職員から花束が渡されました。

10月1日、新高梁市が誕生し、これに伴う新市の市長選挙は10月24日に投票、即日開票の結果、元成羽町長の秋岡毅つよしさんが当選しました。当日有権者数は、3万1447人。投票者数は、2万6592人で、投票率は84・56%でした。

## 新市長就任

あいさつ

### 皆さまとともに

#### 新しいまちづくり

このたび、多くの市民皆さまのご支援をいただき、新しい高梁市の初代市長を務めさせていただきますことになりました。今、改めてその重責に身の引き

締まる思いの中、全身全霊を上げて取り組んでいきたいと決意しております。さて、わが国の社会経済は、これまで経験したことのない変革の時代を迎えており、自治体を取り巻く環境も急速に進む少子高齢化、景気の低迷等を背景に、地方分権の進展・市町村合併など大きく変化してきております。このことは、単に自治体の権限

の拡大を示すものではなく、自らの知恵と責任で、積極的にまちづくりを進めることのできる時代が来たことを意味するものであります。さらには、自治体同士が魅力あるまちづくりを目指して、お互いに競い合う、都市間競争の時代を迎えているともいえます。よりよいまちづくりに向けて、各地方自治体は切磋琢磨せつさくさくましております。

こうした自治体が置かれた状況と、与えられた職責を深く認識し、「市民のための市政」を常に考えながら、市民と協働のまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

私は、これまで約18年間、成羽町長として地方自治の一端を担ってまいりました。また、一市四町の合併に調印した一人として、旧五市町が、これまで取り組んできたまちづくりの考え方をさらに発展させ、市民皆さまの参画のもと交流と連携により新しい地域の一体性を確立し、活力と創造力を有した高梁市のまちづくりを基本としながら、総合的な地域福祉の充実、生活環境基盤・都市基盤の整備、安全対策をはじめ産業の活性化など生活に直結する行政課題に全力で取り組んでまいります。

農業・商工業・観光などそれぞれ、この地域には素晴らしい素材がたくさんありますが、これらをうまく引き出し「適地適策」で地域の活力・レベルアップに取り組んでいきます。

そのためにも、地域の情報をいかに吸収するかが、キーポイントになってまいります。常に対話と情報公開を大切に、市民と情報を共有するとともに、市民の意向を把握し、市民と市政の心の絆、市民相互の心の絆を育むことが大切であると考えております。そして、市民が自らのまちづくりに携わる喜びを感じ、活力と魅力にあふれ、全ての市民が誇りを持てる高梁の実現のため、皆さまとともに汗を流したいと切に願っております。

合併した今、その特徴を生かし融和のとれたまちづくりで、合併してよかった」といわれるよう新市の発展のため渾身の努力を傾注してまいります。皆さまのご理解と協力を賜りますようお願い申し上げます。市長就任のご挨拶といたします。

高梁市長  
秋岡毅



立木市長職務執行者から引き継ぎを受けました。



職員を前に「市民の皆さんに十分目を向け、行政を進めていかなければならない」と訓示しました。



市の幹部を集めて初の連絡会議



テレビの取材で、今後の抱負を述べました。